

俳諧蓬萊集

~ 5
2108



門へ利5
群 2/08
卷



藤菜子園とや伴蝶の神使

日之影 玉の長閑さ

幼鳥の聲 朗くもるあけそ

いづき酒あらし小枝の都る

藤菜子園遺愛之記

明治五年四月廿日
藤菜子園

下村家... 可憐

大風狂... 教

舞... 庭の月

夜... 秋

川... 秋

湯... 告

物... 細

居... け

子註の奢てくく鶴ヶ園

又藤を供て喰め朝飯

おんせいの水の水の音井まで

飛石をえり冬乃月新

砂碓の足身ん十逸るまうえ

おし註はくしんてい

又藤をくく神あし出

土屋をくくたの枕癖く

心坂の松の中の花の山

同よきわらわら 名ねる蝶々

岩神田の松の影の松の影

寒道はる大毎の洞

心坂の松の中の花の山

同よきわらわら 名ねる蝶々

岩神田の松の影の松の影

心坂の松の中の花の山

白鳳のくまの境の別係を

追々々々々々々々々々々々

木曾の事を言てあらはし

酒の造り方の所を中

今判のつらな纏ひのつらな

各々のつらな纏ひのつらな

あつたのつらな纏ひのつらな

あつたのつらな纏ひのつらな

心 心 施 心 としつゝ 寛大ニ

免 免 骨牌 骨牌 有て 散敷

雪 雪 前斗 前斗 合

用心 用心 土の 氷の 月 形

よ よ な な 虎 虎 の 麓 麓 の 山 山 籠 籠

家 家 遠 遠 人 人 の 音 音 力 力 の 弓

猫 猫 の 老 老 大 大 将 将 の 夕 夕 波

石 石 蔵 蔵 赤 赤 と 見 見 る る 藤 藤 序

花とぬきぬきの一筆のま

後々ありやうの
聲

八重虎一まゝに平の地獄

を
神聖なるひらき
振地

年(元)の流のそとに
麻令

探
馬
あまの
洋

鳴
聲
の
後
方
響

尾崎氏ノ二里山乃若坊

張門一冠 一の海の一

斗の門一 年の三の門を 老石

十の門一 年の三の門を 老石

斗の門一 年の三の門を 老石

味門一 年の三の門を 老石

斗の門一 年の三の門を 老石

雨土の海一 年の三の門を 老石

斗代更替一 年の三の門を 老石

中

半箇美介

Handwritten calligraphy in cursive script, including a small illustration of a sword or blade.

Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side.



Handwritten calligraphy in cursive script on the right page.



五



五



西月
卷藏



17

17

五三三
テサ

ワ

